

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町持田地域まちづくり協議会			基本目標	町民が参画できる体制づくり		
担当課(局)・係	政策推進課	総合政策係	記入者	宮越 信義	評価者	森 弘道	開始年度 H19 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	高鍋町持田地域まちづくり協議会											
	意図・目的	下持田地域の歴史・文化・自然環境の特性を活かしたまちづくりを推進し地域の活性化と賑わいの創出を目指す											
事業の内容	地域連携のため、ナイターソフトボール大会の開催、嶋野浜等の環境美化活動、高齢者の健康促進のための体操教室、地域の歴史文化を掘り起こすため、之伎野妃墓地の整備を行う。												
23年度決算額		100	千円	24年度予算額		50	千円	事業従事者数	H23 0.12	人	H24 0.12	人	
主な支出項目	補助金	100	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	23年度人件費	856			千円	
			千円		県支出金		千円	24年度人件費	857			千円	
			千円		地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0	%		
			千円		一般財源	50	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください					
			千円				千円						
町の補助事業	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名		持田地域まちづくり協議会補助金								
	補助交付団体		持田地域まちづくり協議会		補助金要綱		高鍋町持田地域まちづくり協議会補助金交付要綱						
	23年度	補助額	100	千円	補助の形態	運営費補助	H24年度補助額	50	千円	終期	24	年度	
		団体の決算額	136	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		補助の割合	78.74	%	3か年の補助として平成21年度の検討委員会で承認されているので、平成24年度に協議するものとする。								
繰越額		9	千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか	
	1 行事参加者数	自らの地域づくり協議会が行う行事に地域住民が積極的に参加することで、地域住民の意欲と連帯の気運を高めることができた。	
	2		
	3		
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に	
	1 会議回数	二ヶ月に1回役員会を開催し、年間の行事計画を定めるとともに、会の発展のための協議を行った。	
	2 作業・イベント回数	之伎野妃墓地の清掃、ナイターソフト大会、嶋野浜清掃、出前講座による防災講演会などを実施した。	
	3		

◎達成状況

	指標名	単位	22年度	23年度	24年度
			目標値	500	1,000
成果指標	行事参加者数	実績値	1,167	1,352	
		達成率	233.4%	135.2%	
		目標値			
		実績値			
		達成率			
		目標値			
活動指標	会議回数	目標値	10	5	5
		実績値	7	5	
		達成率	70.0%	100.0%	
	作業・イベント回数	目標値	6	5	5
		実績値	5	5	
		達成率	83.3%	100.0%	
		目標値			
		実績値			
		達成率			

事務事業名	高鍋町持田地域まちづくり協議会	担当課(局)	政策推進課
-------	-----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数
			自己評価
(必要性)	事業5年目となり、活動は定着、継続性が出来上がってきており、協議会として自主的に活動が推進されている。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	0
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	1
有効性	地域をあげて行事に取り組むことにより、地域内の交流、活性化が促進される。	◎目標に対して成果は得られているか	2
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効率性	地区ごとに開催されているスポーツ大会や清掃活動を合同開催することにより、交流行事として持続可能なイベントとなっている。経費についても、高齢者福祉センターの利用料収入を活用できることから、半分以下に抑えられてきている。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2
		◎費用対効果が十分に認められるか	1
協働性	地域住民の主体的な取り組みを側面からサポートしていく	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	2
合計(最高18点)			13

※町補助をしている場合のみ記入

(公益平性)	現状の参加者は、持田地域というエリア内がほとんどであるが、今後の発展性、モデル性を考えた場合、公益性は充分確保されている	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	1
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1
		◎町民の理解が得られる事業であるか	1
合計(最高4点)			3
その他	元々持田団地建替事業に併せて設立された団体であり、育成支援を行う観点から補助金を支出している。補助金の見直しにより年々減少し、平成24年度は5万円となったが、補助金のみの収入では会の運営が厳しいため、指定管理者として収入している施設使用料の一部を会の運営に利用することとなった。原則、今年度で補助金を廃止し、施設使用料等による自主運営に切り替える方針である。今後、協働のまちづくりを進める上で、他の地域の手本となる団体としていきたいことから補助金がなくても町が支援すべきと考える。		

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	担当者の方針に対する評価者としての所見	まちづくりを町民との協働で推進していくには地域協議会の設置が必要と考え、このモデルとして持田地域まちづくり協議会を位置づけている。H25年度からの運営補助金の廃止を予定しているが、町の支援は続けていくべきである。	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充	維持	縮小	廃止
◎担当者の方針に対する評価者としての所見	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等		事業の方向性		○		
			コスト	廃止	縮小	維持	拡充

◎事務事業評価委員の意見等

<ul style="list-style-type: none"> 協議会は存続していくべきである。 指定管理者の中で運営をお願いしたい。 協働のまちづくりを進めるうえで、この協議会をモデルに町内に連協あるいは学校区などの単位で自主組織の設立機運が盛り上がるよう期待している。 協働のまちづくりの先進事例として他の地域への波及効果を期待する。 事業としては継続していくべきものであるが、補助金(コスト面)は終期とともに廃止するべきである。 	◎今後の方向性
	事務事業評価委員会
	判定: 縮小
	外部評価委員会
	判定: 縮小